

学校教育目標	<自立し、貢献できる人> 「知」:生きてはたらく知 「徳」:豊かな心 「体」:健やかな体 「公」:公共心と社会参画 「開」:未来を開く志		学びの楽しさを知り、自ら目標や夢に向けて学び続ける力を大切にします 自分を律する力と自他尊重の態度と心を大切にします 粘り強く最後までやり遂げるたくましい心と体を大切にします 他者と協働する力と人の役に立とうとする心(貢献)を大切にします 視野を広げ、自己実現力(自立)を大切にします	
	学校概要 創立 59 周年 児童生徒数: 799 人	学校長 枝迫 大成 副校長 渡辺 信行	3 学期制 一般学級: 20 個別支援学級: 4	主な関係校: 矢向小、新鶴見小

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<知識・技能, 思考力・判断力・表現力> 学習や体験を通じて、物事の関係性を考え、生活や将来に生かそうとする力 <学びに向かう力・人間性> 行動の中に根拠をもたせ、自分の意見や考えを述べ主張できる力	矢向中学校 矢向小学校 新鶴見小学校	輝く未来を切り拓く、たくましい子 ○「子どもが納得できる一貫した指導」のため、中9年間を通して共通の「決まりごと」の指導 ○授業体験の実施と部活動および合唱活動を通じた児童生徒交流 ○重点研ならびに校内授業研の相互参加による学力向上に向けた研究協議会の実施 ○児童生徒指導合同研修会の実施

中期取組目標	○人権を尊重し、他を認め合い、相手の立場になって考え、いたわりや優しさの心を持つ生徒の育成を進めます。 ○「わかる授業」「楽しい授業」の展開を通して、学ぶ意欲の向上と基礎基本の定着を進めます。 ○教育相談を充実させ、心身が健康な生徒の育成と安心安全な学校生活づくりを進めます。 ○学校評価を生かし保護者や地域と協働し、「まち」と共に歩む学校づくりを進めます。 ○教職員の一人ひとりが生徒とのふれあいを大切に、お互いに豊かなコミュニケーションを図り、「チーム矢向」として活力のある学校づくりを進めます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当 研究部(人権教育推進係)	①「特別の教科 道徳」の時間を要として、全ての教育活動を通して道徳教育の充実を図る。 ②「福祉体験学習」「職業講話」「チャレンジワーク」などへの取り組みを通して、地域を意識した上で学ぶ姿勢やコミュニケーションの重要性を知り、思いやりの心を育てる。
生きてはたらく知 担当 学習指導部	①新しい教育課程を意識し、各教科において「育てたい資質・能力」「具現化策」をさらに検討し、年間を通して授業での実現を目指す。 ②ICTを活用した生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにさらなる授業改善を行う。
健やかな体 担当 保健体育科 保健環境指導部	①(グラウンド改修も完了したので)種目の決定や動きの確認を再度行う。また、事前の準備に関しても体育の授業と連動させ、生徒の活躍の場を作るための工夫する。②食育を意識し、授業を通して成長期に必要な栄養摂取と留意点を学び、実践の場と振り返る機会を作る。
教育課程 小中連携 担当 研究部(連携係)	昨年度実施できないことが多かったため、昨年度と同様に①中一ギャップの解消を目的とした小中連携の各行事について、これまでの内容をさらに精査し、より効果的なものとする。②学習面の連携は、学習状況調査や定期テストの結果を踏まえた状況分析をもとにした連携を強化する。
児童生徒指導 担当 生徒指導部	①情報共有と記録のために導入しているNASの生徒指導記録の活用を強化していく。 ②指導部での情報共有を密に測り、全体での共有が必要な物に関しては、全体での周知を図っていく。
特別支援教育 担当 特別支援委員会	①不登校生徒のための交流室の運用2年目となり、1年目の反省を生かした支援の実践を行う。②一般級の支援を必要とする生徒たちについて、学年内での共有や個別支援計画の作成を促し、全職員での共有を図る。
教育環境整備 担当 特活指導部	①新校舎完成により、新たに少人数教室や交流室、多目的室などが整備され、その利用目的に応じた環境作りをさらに進めていく。 ②進路に関する資料や様々なイベントに関して、全校生徒が共有し活用する生徒がでてくるような工夫をする。
学校運営協議会 地域連携 担当 教務部	昨年度実施できないことが多かったため、昨年度と同様に①地域の祭事だけでなく、地域防災などの行事に参加を呼びかけ、体制を整え活動の活性化を図る。②授業(研究授業)や行事等、実際の教育活動に参観してもらう機会をつくり、教職員との協議を行い学校運営の改善につなげる。
いじめへの対応 担当 いじめ防止委員会	①学校カウンセラーをはじめ外部機関との情報交換・共有を更に深めていく。SSWの活用・連携をより充実させる。②いじめ防止委員会が出た事案については再発防止に努めるとともに、より一層いじめが起らない環境作り・啓発運動を行う。
人材育成・組織運営 (働き方改革) 担当 研究部(研究研修係)	①メンターチームを継続・充実させ、生徒指導・学級指導・学習指導の実践力の段階的向上を目指す。 ②生徒指導、いじめの防止とその早期発見、危機管理などの校内研修を計画的に実施し、学校や教職員に求められる資質・力量のさらなる向上を目指す。